

臨床研究

「AYA (adolescent and young adult) 世代悪性腫瘍の臨床病理/遺伝子学的研究」 について

筑波大学附属病院では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

小児と成人のはざまにある思春期・若年成人の世代はAYA (adolescent and young adult) 世代と称されます。AYA 世代に発症する悪性腫瘍は、他の世代の悪性腫瘍と比較して、疾患分布やその臨床学的特徴は大きく異なると報告されています。

しかし、この世代の悪性腫瘍患者が希少であることから、その臨床学的特徴については未だ全てが解析済みとは言い難く、分子生物学的な特徴に関する解析報告もこれまで数えるほどの数に留まっている状態です。

本研究においては、AYA 世代に発症した悪性腫瘍の臨床病理学的特徴を解析し、遺伝子学的特徴を探索的に解析します。

② 研究対象者

2005年1月1日から2020年6月30日までに筑波大学附属病院にて、AYA 世代（15歳以上39歳以下と定義）に発症し、組織学的（切除標本、生検、または細胞診標本）に悪性腫瘍の確定診断が得られている悪性腫瘍症例を対象とします。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2024年3月31日まで

④ 研究の方法

上記に既述した対象症例を癌登録室および病理科のデータベースから抽出し、診療録閲覧により、各悪性腫瘍症例の発症年齢、性差、悪性腫瘍家族歴、既往歴、喫煙歴、飲酒歴、重複癌/多重癌の有無、症状出現から病理学的診断に至るまでの期間、病理診断内容、診療の経過で得られた遺伝子学的検査結果、診断時の病期、治療内容、化学療法奏効率、無増悪生存期間、全生存期間の調査・解析を行います。

また、生検検体（パラフィン包埋ブロック）が保存されている症例、あるいはバイオバンクに検体が保存されている症例について、全エクソン解析とマイクロサテライト不安定性評価（PCR）を筑波大学プレジジョン・メディシン開発研究センターで実施してその遺伝子学的特徴を探索的に調査します。

⑤ 情報の項目

各悪性腫瘍症例の発症年齢、性差、悪性腫瘍家族歴、既往歴、喫煙歴、飲酒歴、重複癌/多重癌の有無、症状出現から病理学的診断に至るまでの期間、病理診断内容、診療の経過で得られた遺伝子学的検査結果、診断時の病期、治療内容、化学療法奏効率、無増悪生存期間、全生存期間。

生検検体（バイオバンクに保存されている凍結保存検体または病理部に保存されているパラフィン包埋ブロック）が保存されている症例について、全エクソン解析（遺伝子解析）とマイクロサテライト不安定性評価を実施して得られた遺伝子学的情報。

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

該当しません。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 腫瘍内科 鈴木敏夫

⑧ 研究機関名および研究責任者名

筑波大学附属病院 腫瘍内科 鈴木敏夫

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：腫瘍内科 鈴木敏夫

電話：029-853-3525（平日 10～17 時）